

学 会 記 事

◎定例常議会（昭.34.3.31, レストランとうきよう）
 常議員：出席者 篠原, 本間両副会長, 樋浦, 大西, 格井, 神山, 嶋, 竹内, 谷口, 三浦, 友田の諸氏 11名。
 委任状 千葉, 中村, 高木, 春成, 安藤, 五味, 山口, 足立, 川村, 橋本, 堀場, 石原, 徳岡, 藤田, 佐々木, 庄司, 江里口, 坂田, 篠原の諸氏 19名, 計 30名（常議員 49名）で常議員会成立。前会長および名誉員 真田, 青木, 平山, 小野, 牧野の諸氏。理事 高野, 藤村, 渡辺, 国分, 比田, 西嶋の各氏。議事：(1) 34年度事業計画案を高野総務部長から説明があり, これを承認。

（本部の行事）

- 4月 関東地区常議員半数改選
- 6月 定例常議員会, 第4回水理研究発表会（広島）, 通常総会および第14回年次学術講演会ならびに見学会（広島）
- 8月 夏季講習会「トンネルおよび掘さく工法」
第9回応用力学連合講演会および見学会（8学協会共催 名古屋）
- 9月 橋梁構造工学研究発表会（日本建築学会と共催）
第3回材料試験連合講演会（16学協会共催 東京）
- 10月 第3回地震工学研究発表会
- 11月 第5回海岸工学研究発表会（新潟）
会員名簿発行
- 3月 定例常議員会
その他随時に講演会, 映画会, 見学会またはエキスカレーションを行う。

（各種委員会）

- 会誌編集委員会（毎月1回）
- 会誌編集小委員会（毎月1回）
- 文献調査委員会（毎月1回）
- 論文集編集委員会（隔月各部会）
- 論文集定期年6回刊行および部会長会）
- 水理委員会：水理研究発表会, 水理学研究現況年報刊行
- 海岸工学委員会：海岸工学研究発表会, 欧文論文集第2巻刊行
- 海岸保全施設小委員会：海岸保全施設の設計基準の制定
- 波力小委員会：波力に関する調査研究
- コンクリート常置委員会：コンクリート技術の研究
- プレストレスト コンクリート委員会：プレストレストコンクリート技術に関する研究
- フライアッシュ小委員会：フライアッシュの調査研究
- 耐震工学委員会：地震工学研究発表会, 耐震に関する研究, 第2回世界地震工学会議の準備
- 橋梁構造委員会：研究発表会, 学術会議橋梁構造工学研究連絡委員会との連絡
- 土木工学叢書委員会：叢書の編集
- 製図規格委員会：土木製図基準の制定

大正以降土木史編集委員会：執筆中, 本年度刊行予定
 土木工学ハンドブック改訂委員会：改訂執筆中, 本年度刊行予定

- 論文抄録委員会：第6集本年度刊行予定
- 土木振興対策委員会：土木技術の振興対策
- 土木賞委員会：土木賞の詮衡
- 原子力土木技術委員会：原子炉建設に関する技術研究
- 海外連絡委員会：国際会議に関する事項
- 土木賞規約制定委員会：土木賞授与に関する規約制定
- 土木会館委員会：会館建設ならびに用地に関する事項
- 長大橋梁および高張力鋼鉄道橋研究委員会：国鉄委託研究

(2) 昭和34年度収支予算案を藤村経理部長から説明があり, これを承認。

| 収 入 の 部 | | 支 出 の 部 | |
|-----------|------------|--------------|------------|
| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
| I 会 費 | 15 071 000 | I 総 務 費 | 9 160 000 |
| II 政府補助金 | 100 000 | II 会 議 費 | 300 000 |
| III 刊行物収入 | 9 680 000 | III 負 担 金 | 240 000 |
| IV 雑 収 入 | 9 670 000 | IV 支 部 交 付 金 | 1 600 000 |
| | | V 事 業 費 | 21 780 000 |
| | | VI 施設管理費 | 100 000 |
| | | VII 引 当 金 | 520 000 |
| | | VIII 予 備 費 | 821 000 |
| 合 計 | 34 521 000 | 合 計 | 34 521 000 |

(3) 常務理事制設定にともなう定款および規則の各一部改正案を承認し, 総会に付議することとなった。

◎第10回理事会（昭.34.3.18）出席者：篠原, 本間両副会長, 高野, 渡辺, 国分, 西嶋の各理事, 深谷編集幹事。議事：1) 2月中の各報告事項, 2) 昭和34年度事業計画案および収支予算案を審議し常議員会に諮議することとした, 3) 定款の一部および規則の一部改正案を審議, 4) 3月定例常議員会を3月31日開催に決定, 5) 関東地区常議員半数改選の詮衡委員会委員長を本間副会長に決定, 6) 学術会議原子力特別委員会, 土木建築部門の委員推せんについて, 7) 論文抄録委員会委員, 幹事の委嘱, 8) 日本工学会次期理事学会選挙および次期会長選挙のため候補推せんについて, 9) 2月中会員入退会を承認。

◎各種委員会

1. 第10回会誌編集委員会（昭.34.3.20）出席者：田原委員長, 田村, 都, 尾形, 大西, 海保(代片山), 南部(代西原), 三宅, 後藤(東北)の各委員, 深谷幹事。議事：1) 投稿原稿の審査報告および審査委員の決定, 2) 依頼原稿の状況, 3) 学会誌投稿要領について最終的に審議, 4) 44巻5号登載原稿を次のとおり予定した。
 田中倫治：交通シンポジウム—鉄道—, 綾 亀一・中田 重夫：最近の遠心力鉄筋コンクリート タイ継手法について, 小川 元：ポンプ船排砂管の経済的管径およびその他の諸問題, 中安米蔵：建設省河川砂防基準(案)

について、尾之内由紀夫：道路構造令について、成岡昌夫：階差法に関する文献。

3. 第10回会誌編集小委員会（昭.34.3.6）出席者：田原、井口正副委員長、田村、都の両委員、深谷幹事。議事：1）44巻4号会誌編集につき最終的な打合わせを行った。2）44巻3号口絵写真およびニュースについて協議、3）その他。

4. 第10回文献調査委員会（昭.34.3.5）出席者：井口理事、樋口委員長、津野、丸山、伊能(代)、片山、土屋、日野、小池、岩間、佐藤(代伯野)の各委員、矢島幹事、御糰氏(情報センター)。議事：1) 井口理事よりUDCにつき第2回目の簡単な講義を聞いた、2) 4月掲載の文献目録および抄録の内定、3) 4月号より目録および抄録欄の活字を大きくすることに決定、4) App. Mech. Review への論文紹介に関する件、5) その他。

5. 第5回論文集編集各部委員会（昭.34.3.12）出席者：(第1部会)高田部会長、奥村、平嶋、田島、高田、大地、松崎の各委員、(第2部会)竹内、岡田、嶋の各委員、(第3部会)後藤部会長、山口、竹下の両委員、(第4部会)友永部会長、大島、細井(代)、黒河内、渡部の各委員、徳平編集幹事。議事：1) 各部会ごとに審査報告および新規受付原稿の審査委員の決定、2) その他。

6. 第5回論文集部会長会（昭.34.3.23）出席者：友永委員長、竹内、嶋、田島、後藤、渡部、山口の各委員、徳平幹事。議事：1) 各部会報告、2) 論文集62号(5月発行)の掲載原稿予定、3) その他。

7. 第24回耐震工学委員会（昭.34.3.2）出席者：沼田委員長、岡本、神谷、水越(代)、小西(代)、昌山、比田、星埜、田原、友永の各委員、久保幹事。報告事項：a) 第2回世界地震工学会議の準備経過報告および後援会設立経過について、b) 国際地震工学 Training Centerについて。協議事項：a) 国鉄委託研究については委託が決定の上専門委員会を作り、資材の収集、設計の吟味を行い、その記録、討議を集めて報告書を作る程度にする、b) 震度についての論文は、各分野の専門家の意見をきいて、これをまとめることとする、c) 依頼論文6編の担当者の打合会を開いて、連絡を密接にするようにする、d) 地震時調査班の組織については、非常事故調査規定(仮名)を作り、土木工学上の原因を緊急に調査しうる態勢を整えるよう計画すること、e) 第3回地震工学研究発表会について。

8. 第6回コンクリート常置委員会（昭.34.3.3）出席者：国分副委員長、深谷、浅井、山村、小林、藤井、土岐、赤塚、塚山、山崎の各委員。議事：鉄筋コンクリート標準示方書118条より161条まで深谷委員から説明があり逐条審議した。

9. フライアッシュ小委員会（昭.34.3.9）出席者：国分委員長、高野(代柳川)、平野(代野木)、左右田、関、河原(代村野)、伊東、有泉(代安沢)、太斉、石垣、平野(代石川)、水越、高橋、光岡、国武、久木田、本間、武藤、杉木の各委員、(三浦委員見学)。見学：新東京火力発電所、東電フライアッシュ工業東京工場 参加者17名、見学終つて土木学会に集り委員会に移つた。議事：1) 共通試験結果の報告、2) 各工場で調査した各フライアッシュの品質均等性についての報告、3) その他。

10. 第2回土木賞委員会（昭.34.3.10）出席者：内海委員長、秋草、岩井(代)、太田尾、神谷、佐藤、種谷、平井、星埜、松井、最上、米屋、樋浦、荒井(代小寺)、田中、内林、篠原、国分、田原、友永の各委員。補助説明者：(論文集)高田、後藤、嶋。(学会誌)南、南部の諸氏。議事：1) 候補論文学会賞9件、奨励賞6件の推せん経過の報告、2) 奨励賞の対象となる著者の卒業年次および年令について種々討議の上、著者は大学または旧専門学校卒業後10年以内のものを対象とすることに決定、それにより奨励賞候補論文推せんは6件のうち3件とした、3) 推せん担当者から論文内容を説明した、4) 各委員は候補論文学会賞9件のうち2件以内、奨励賞3件のうち2件以内を選定し投票すること、5) 第3回委員会にて授賞論文を決定する。

11. 定款改正特別委員会（昭.34.3.11）出席者：本間委員長、高野、西嶋、国分、渡辺(代西亀)の各委員、豊田幹事。議事：常務理事制設定に関し、定款および規則の一部改正案について協議し、理事会に答申する改正案を決定した。

12. 長大橋梁および高張力鋼鉄道橋研究委員会（昭.34.3.10）出席者：田中委員長、多田、中村、成瀬、田中(五)、友永、平井(代伊藤)の各委員、西村、菊池、安浪、大宮、田島、阿部の各幹事。議事：高張力鋼鉄道橋設計示方書第4章部材および桁の設計について審議し、第2議会終了。**同委員会**（昭.34.3.28）出席者：田中委員長、沼田、成瀬、福田、奥村、田中(五)、平井(代伊藤)、小林、埴田(代上野)、村上、友永、小西(代山田)、中村(代)、松崎の各委員。西村、大宮、菊池、伊藤、田島、阿部の各幹事。議事：1) 高張力鋼鉄道橋設計示方書の第三次案について審議、2) 平井委員(代伊藤、小林)から諸外国長大橋梁文献リストおよび過去の主な橋梁事故に関する報告、3) 小西委員(代山田)から Wer Ten 55 と SS 50 の疲労試験について説明。

13. 第19回水理委員会（昭.34.3.19）出席者：安芸委員長、吉川幹事長、渡辺、岩塚(代木村)、岡田、本間、井島(代青野)、井部(代松岡)、市浦、坂本、嶋、高畑(代高石)、寺島、野中(代二階堂)、村、米元、藤本(代手塚)、田中(代室田)、矢野の各委員。議事：1) 第4回水理研究発表会のプログラムを幹事長が編成すること、

広島において発表会終了後委員会を開くこと、2) 34 年度水理学研究の現況発刊につき原稿募集の手配をすること、3) IAHR の次回大会について、総会を別の場所で行い Technical Meeting を日本でいうという案で検討された、4) IAHR の大会に際し行われる Seminar に流砂に関する研究を発表するため、分担を決めて原稿を作成すること、5) 地球物理学連合の幹事学会を必要の時機に水理研究会で引受ける方針を決定、6) 地球物理学研究連絡委員会の陸水分科会について委員長より紹介があつた、8) 学術会議水力学 水理学研究連絡委員会と共催で「水力学水理学における境界層理論の応用に関するシンポジウム」を4月28日学術会議で行うこと。

14. 第2回論文抄録委員会(昭.34.3.26) 出席者:左合委員長, 久保, 村上, 吉川, 嶋, 芦田, 多谷, 伊東(代養王田), 野口, 小林(元)(代上東), 明石, 横戸, 春日屋, 千秋, 原田, 君島, 二階堂, 加川, 御巫, 鶴田(代伊藤), 富永, 伊吹山(代佐藤), 竹下(代一瀬), 新谷, 田島(代足立), 西脇, 中村(正), 松原(代宮原), 高橋(克)(代柴垣), 高橋(浩), 諫山(代足立), 松尾(代磯中), 小林(国), 大島の各委員, 島田, 嶋の両幹事。議事: 1) Aクラス以外の雑誌は各委員が分担することに決定、2) 各委員の担当雑誌の追加, 訂正, 削除を検討した、3) 土木学会備付図書のうちで今回抄録に使用するものを決定、4) 大学, 研究所, 官庁の研究出版物については, その責任者に抄録の依頼状を出すことに決定、5) 第3回, 第4回委員会の日程を決定し, 今後の作業の手順を計画した。

15. 土木振興対策委員会(昭.34.3.27) 出席者: 内海委員長, 金森, 金子, 高橋, 比企, 町田, 山本, 吉田, 松野, 高野の各委員。議事: 1) “土木士制度について”の趣意書を比企委員から説明の上, 関連事項について協議した、2) 土木振興諸施策についてその実現を重ねて要望すること、3) その他。

◎その他

1. 夏季講習会計画打合せ(昭.34.3.13, 日大本部) 出席者: 小野, 野田両理事, [建設省] 田原保二, 小林泰(代望月邦夫), [通産省] 篠原 清, [東京電力] 本間三郎の諸氏。議事: 2月の理事会で取り上げられた夏季講習会課題「トンネルと掘さく工法」に関し, 出席者それぞれの立場からの意見で, 一応16題目とその講師が選定された。

2. 第3回材料試験連合講演会第1回運営委員会(昭.34.3.13, 学術会議第2会議室) 西原委員長, 浜田幹事ならびに材料試験連合講演会参加16学協会(金属表面技術協会, 高分子学会の両会欠席)の運営委員および担当職員が参集。議事: 1) 参加学協会および幹事学協会の確認、2) 土木学会より第1回連合講演会の経過資料を提出し, 国分委員が説明の上, これを基準として第3回の実施大

綱をたてることとした、3) 講演募集要綱を決定し, 速かに参加学協会に流し, 最近の機関誌から2回以上掲載を求めることとした。

講演会日程: 昭和34年9月15, 16日の両日

会 場: 日本学術会議講堂

講演申込期限: 6月15日

講演前刷原稿提出期限: 7月20日

その他の条件は前回と大差なし。

4) 経理方法も大体前回の例にそうこと、5) 実施計画の詳細は幹事学協会に一任すること。

支 部 だ よ り

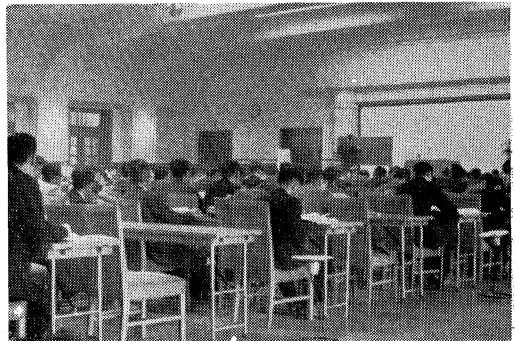
1. 中部支部

(1) 第12回幹事会(昭.34.3.19) 出席者: 幹事20名。議事: 1) 報告事項 a) 2月見学会について, b) 3月講演会について。2) 協議事項 a) 次期支部長の推せんについて, b) 今年度支部費決算見込について, c) 来年度事業について。

(2) 第4回役員会(昭.34.3.19) 出席者: 梶谷支部長ほか役員40名。議事: 1) 次期支部長の推せんについて, 2) その他。次期(昭和34年度)支部長として愛知県土木部長 大谷 英氏が満場一致で推せんされた。

(3) 講習会(昭.34.3.19~20, 9~17時)「建設工事の施工と工事管理」, 会場: 名古屋市公会堂

講習会風景



河川計画と改修について—河川技術基準より—

建設省治水課長補佐 岡崎 忠郎

高山線11号台風(33年度)災害復旧計画について

国鉄名鉄局工事課長 杉浦 優

トンネル(主として堅岩トンネル)の施工計画と実績

国鉄岐阜工務局技師 横山 章

港湾の施工と管理について

第三港湾建設局長 工博 東 寿
土木施工と鉄鋼製品

日本鋼管KK調査役 齊藤 外吉

道路設計施工の最近の傾向

建設省国道課長 工博 谷藤 正三

最近のアスファルト舗装の施工について

日本舗道KK業務部長 亀掛川振興

PS コンクリート橋の施工について

P.S. コンクリートKK工事部長 洞庭 謙
建設工事における工程管理並びに品質管理について
名古屋国道工事事務所長 安部 清孝

2. 関西支部

(1) 第14回幹事会(昭.34.3.2) 大阪建設会館にて。出席者:石原支部長,近藤幹事長,石田,大島,別所,八木の各幹事,土木賞委員会支部委員 小西一郎,田中 清,常議員 稲垣茂樹,永井荘七郎,藤田駿五。

(2) 第15回幹事会(昭.34.3.26) 桜の宮公会堂にて。出席者:石原支部長,近藤幹事長,石田,伊藤,別所,八木の各幹事。

(3) 交通問題に関する講習会(昭.34.3.26~28・3日間) 桜の宮公会堂にて

第1日 3月26日(木)

- 1) 交通論 京都大学教授 経博 佐波 宣平
- 2) 交通計画 京都大学教授 工博 小林 勇
- 3) 道路計画 建設省道路局企画課長 尾之内由紀夫
- 4) 交通計画理論 京都大学教授 工博 米谷 栄二
大阪市大講師 ○毛利 正光
- 5) 名神高速道路

日本道路公団名神高速道路部長 片平 信貴

第2日 3月27日(金)

- 6) 鉄道計画 国鉄審議室長 滝山 養
- 7) 国鉄の大阪付近の鉄道計画
国鉄大阪工事局長 藤田 駿五
- 8) 港湾計画 運輸省港湾局長 中道 峰夫
代講 第三港湾建設局企画課長 木内 政鋭
- 9) 空輸計画 運輸省航空局技術部長 関口規矩二
代講 同 検査課長 大沢 信一
- 10) 大阪の都市交通問題
運輸省自動車局業務部長 梶本 保邦

第3日 3月28日(土)

- 11) 道路交通の問題と対策

大阪府警本部警ら交通部交通第一課長 大本 美男
12) 首都圏の全貌

首都圏整備委員会事務局長 榊山 俊夫
代講 同 企画室長 黒田 俊雄
受講者 287名(6日間延べ約600名)

(4) 交通問題講習会講師懇談会(昭.34.3.27) 大阪グランドホテルにて。出席者:講師:小林 勇,毛利正光,尾之内由紀夫,藤田駿五,大沢信一,大本美男,黒田俊雄,前支部長:真田秀吉,高西敬義,橋本敬之,岩崎雄治,泉谷平次郎,鈴木角一郎,近藤泰夫,稲垣茂樹,支部長:石原藤次郎,幹事長:近藤市三郎,幹事:石田聖,大島太郎,別所多喜次,松尾新一郎。

(5) 前支部長懇談会(昭.34.3.27) 大阪グランドホテルにて。出席者:前支部長 真田,高西,橋本,岩崎,泉谷,鈴木,近藤(泰),稲垣の各氏。石原支部長,近藤幹事長,石田,大島,別所,松尾の各幹事。

3. 西部支部

(1) 支部総会(昭.34.3.11) 福岡市電気ビル
海外視察報告 九州地建河川部長 吉川 吉三
同 九州大学教授 篠原 謹爾

開会の辞(橋高幹事長)

支部長挨拶(渡辺支部長)

事業報告(橋高幹事長) 昭和33年度事業報告,
昭和33年度会計報告,役員改選結果報告

新支部長挨拶(九電土木部長 田代信雄)

閉会の辞(橋高幹事長)

映画 奥只見ダム工事記録映画

役員改選

| | | |
|-------|-----------|-----------|
| 支部長 | 田代 信雄 | 九電土木部長 |
| 地区常議員 | 坂田 静雄(再選) | 福岡県河川課長 |
| 同 | 田賀 秀和(再選) | 第四港建次長 |
| 同 | 江里口正夫(再選) | 国鉄西部支社調査役 |

会員入退会について(昭.34.3.31現在)

1. 入会 53名(正33,学20) 2. 退会 52名(正30,准20,学1,特31)

会員現在数(昭.34.3.31現在)

| | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|----|-------|
| 名誉員 | 賛助員 | 特1A | 特1B | 特1C | 特2級 | 特3級 | 正員 | 准員 | 学生員 | 増減 | 計 |
| 26 | 30 | 17 | 12 | 69 | 109 | 96 | 9020 | 4213 | 1137 | +1 | 14729 |

| | | | | |
|----|----------|-------------|--------------|-----|
| 正員 | 古藤 猛 哉 君 | 北海道大学名誉教授 | 昭和34年3月18日逝去 | 80才 |
| 正員 | 吉田 劍 二 君 | 名古屋港管理組合技術部 | 昭和34年3月12日逝去 | 60才 |
| 正員 | 小林 三喜治 君 | KK郷組宮川作業所長 | 昭和34年3月1日逝去 | 60才 |

昭和34年4月10日印刷

昭和34年4月15日発行

土木学会誌 第44巻第4号

印刷者 大沼正吉

印刷所 株式会社 技報堂

東京都港区赤坂溜池5番地

編集者 国分正胤

発行所 社団法人 土木学会

東京都新宿区四谷一丁目(外濠公園入口)

定価 100円

振替 東京 16828 番

電話 (35) 5130・5138・5139 番

コンクリート標準示方書（昭和33年版）正誤表

無筋コンクリート標準示方書

| ページ | 行 | 条 | 誤 | 正 |
|-----|---|----|------------------------------|---|
| 17 | 1 | 26 | $c/w-\sigma$ 線はつぎの式としてよい。 | c/w と σ との関係として つぎの式を用いてよい。 |
| " | 6 | 26 | 表 5 コンクリートの耐久性から定まる最大の水セメント比 | 表 5 コンクリートの耐久性を もととして水セメント比を定める場合の最大の水セメント比 |

鉄筋コンクリート標準示方書

| | | | | |
|-----|-------|-----|------------------------------|---|
| 67 | 10~11 | 29 | $c/w-\sigma$ 線はつぎの式としてよい。 | c/w と σ との関係として つぎの式を用いてよい。 |
| " | 17 | " | 表 6 コンクリートの耐久性から定まる最大の水セメント比 | 表 6 コンクリートの耐久性を もととして水セメント比を定める場合の最大の水セメント比 |
| 73 | 2 | 42 | バケツを用いるがよい。 | バケツを用いるのがよい。 |
| 111 | 図 16 | 143 | (図の説明) $t \leq b$ | (図の説明) $t \leq d$ |
| 116 | 8 | 149 | | 図 19 の上のりを削除 |

コンクリート舗装標準示方書

| | | | | |
|-----|-----|----|------------------------------|---|
| 139 | 下・1 | 15 | ____ ときの | 返したときの |
| 145 | 3 | 35 | 表 5 コンクリートの耐久性から定まる最大の水セメント比 | 表 5 コンクリートの耐久性を もととして水セメント比を定める場合の最大の水セメント比 |

ダム コンクリート標準示方書

| | | | | | | | | |
|---------------------------|--------------------------|----|---|---|--------------------------|---|---------------------------|--------------------------|
| 175 | 1 | 28 | 表 5 コンクリートの耐久性から定まる最大の水セメント比 | 表 5 コンクリートの耐久性を もととして水セメント比を定める場合の最大の水セメント比 | | | | |
| 176 | 表 7 | 32 | <table style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding: 2px;">水セメント比 $\frac{W}{C+P}$</td> <td style="padding: 2px;">ポゾラン比 $\frac{P}{C+P}$</td> </tr> </table> | 水セメント比 $\frac{W}{C+P}$ | ポゾラン比 $\frac{P}{C+P}$ | <table style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding: 2px;">水セメント比 $\frac{w}{c+p}$</td> <td style="padding: 2px;">ポゾラン比 $\frac{p}{c+p}$</td> </tr> </table> | 水セメント比 $\frac{w}{c+p}$ | ポゾラン比 $\frac{p}{c+p}$ |
| 水セメント比 $\frac{W}{C+P}$ | ポゾラン比 $\frac{P}{C+P}$ | | | | | | | |
| 水セメント比 $\frac{w}{c+p}$ | ポゾラン比 $\frac{p}{c+p}$ | | | | | | | |
| 180 | 11 | 44 | 達した後で | 達した のちで | | | | |
| 184 | 10 | 59 | ぬらした後、 | ぬらした のち、 | | | | |
| 185 | 12 | 64 | 養生した後、 | 養生した のち、 | | | | |
| 187 | 6 | 73 | 特に水の漏れない | 特に水の もれない | | | | |

土 木 学 会 規 準

| | | | | |
|-----|-----|--|-----------|-----------|
| 331 | 下・6 | | 長さ変比率(%)= | 長さ変化率(%)= |
|-----|-----|--|-----------|-----------|